

なつやす 「夏休み」

中学2年生マサキ君は、6歳年上で大学生のお兄さんシュン君が大好きで、いつも目標にしていました。

夏休みも終わりに近づいたある日、マサキ君はお兄さんから、「朝白、友達のタカノリと海にバーベキューをしに行くんだけど、マサキも来るか？」と誘われました。

マサキ君は喜んで「シュン兄、本当？ 僕も行って良いの？ 行きたい！！」と答えました。

シュン君は「海水浴場はもう閉まっちゃってるけど、海に入るかも知れないから、マサキも準備しとけよ！」と言い、マサキ君は大急ぎで準備して、その日は早めに布団に入りました。

翌日、天気は曇一つない快晴で、マサキ君はウキウキです。

(シュン)「よし嵐の準備もできたし、肉もたくさん買ってきたから、みんなで早速食べよう。」

(タカノリ)「俺、ビール持ってきたから飲もうぜ。 あ、でもマサキ君はジュースな！」

(マサキ)「え～！ タカノリさん、泳ぐ前にお酒飲んで大丈夫！？ 危ないんじゃない？」

「そんなに浜山は飲まないから大丈夫、大丈夫！ 食べ終わったら防波堤の先から海に飛び込んでみようか！」とシュン君。

(タカノリ)「いいねえ！ 誰が一番格好よく飛び込めるか競争だな！」

マサキ君は少し不安に思いましたが、『シュン兄達は大人だし、大丈夫だよな』と考え、お腹いっぱいになるまでおいしいバーベキューを食べました。

(シュン)「はあ～食べた、食べた。 天気も良くて暑いし、そろそろ海に行こうか。」

するとタカノリ君が「俺、火の始末してから行くから、シュンはマサキ君と先に泳いでいいぞ。」と言いました。

(シュン)「良いのか？ タカノリありがとう！ よしマサキ、向こうまで競争だ！」

(マサキ)「タカノリさん、ありがとう！ じゃあ先に行ってるね。」

マサキ君はシュン君と一緒に走って防波堤の先端まで行きました。

(シュン)「よしマサキ！ ここから飛び込めるか？」

(マサキ)「え～、思ったより高いね。 ちょっと稀いかも・・・」

(シュン)「じゃあ俺が先に手本を見せてやろう！ こう飛びんだよ！」

【(バッシューン！！ フクフク・・・)】

(シュン)「ぶはあ～！ 気持ちいい～！！ マサキも早く来いよ。」

(マサキ)「よし、行くぞ！・・・えい！」

【(バッシューン！！ フクフク・・・)】

(マサキ)「ぶはあ～！ 楽しい～い！！ あそこの波消しブロックから上がって、もう一回飛び込んでくる！」

(シュン)「ははは、な、思ったより稀くないだろ！」

(マサキ)「うん！」



声：萌江さん（石巻市出身のシンガーソングライターとして活躍している海上安全サポーター）

音源はこちらからダウンロードしてください
※MP3ファイル (5.7MB)



マサキ君は近くの波消しブロックまで泳いで、もう一度防波堤の上にあがりました。

(マサキ)「よーし、今度は後ろ向きで飛んでみよう!・・・とうっ!」

【【バッシューン!! フクフク・・・】】

(マサキ)「ぷはあ〜! シュン兄、今の飛び込み方どうだった!?!」

「あれ? シュン兄?」 「どこ行った?」

マサキ君は闇りをキョロキョロ見回しましたが、シュン君の姿が見当たりません。

(マサキ)「おーい、シュン兄! あれ? タカノリさんの所に行ったのかな? もう一回上がってみよっと。」

マサキ君はもう一度波消しブロックの方へ泳いでいきました。防波堤の上へあがろうとしたところ、ふと波消しブロックの下で手を振る人影を見つけました。

(マサキ)「シュン兄!? こんな所でどうしたの? ああっ!!!」

そこに居たのは波消しブロックの隙間に落ち、足が挟まって抜けなくなったシュン君でした。

しかもシュン君の口は氷歯の下ギリギリで溺れているようです。

(マサキ)「シュン兄! 大丈夫!? 早く上がって!!!」

マサキ君はシュン君の手を懸いっきり引っ張りましたが、足が抜けません。

(シュン)「フハッ! あ、足が・・・フハッ! 足つって・・・ゲホッゲホッ!」

(マサキ)「ちょっと待って! タカノリさん呼んでくる!!!」

と言うと急いで防波堤の上まで上がり、タカノリさんを呼びに走りました。

(マサキ)「タカノリさん助けて! シュン兄が!! 早く来て!!!」

と言うや否やタカノリさんの手を引いて防波堤の先端まで走りました。

マサキ君はタカノリさんと二人でシュン君の所へ戻ると、シュン君はもう動いていません。

顔も青紫色です。タカノリさんはすぐに状況を確認すると「シュン! 大丈夫か!!!」と言いつつ、シュン君の挟まった足を抜きに落しました。

どうかこうにかシュン君の足を抜いて、二人で防波堤の上へシュン君を引っ張り上げると、

タカノリさんは救急車を呼びました。

救急隊員が来るまでの間、タカノリさんは心臓マッサージをしていましたが、マサキ君は足がガクガク震えて、頭が真っ白になってしまいました。

何分経ったのでしょうか。やっと救急隊員が駆け付け、シュン君は病院に運ばれましたが、

マサキ君の大好きなシュン兄は、もう二度と目覚めることはありませんでした。

マサキ君の耳にはいつまでも救急車のサイレンが響いていました。



考えてみよう!

事故を防ぐにはどうしたらよかったですでしょうか?



お問い合わせ

宮城海上保安部

〒985-0011 宮城県塩釜市貞山通3-4-1
(交通課) 022-367-3917



うーみん うみまる
海上保安庁のイメージキャラクター

海で安全に
楽しんでね